

第3回 丹波市春日地域市立小学校統合検討委員会

黒井・船城地域部会 会議録

- ◇開会 令和8年 2月10日(火) 午後 7時00分
◇閉会 令和8年 2月10日(火) 午後 7時45分
◇会場 春日福祉センター「ハートフルかすが」2階会議室2
- ・部会長 山川 茂則
 - ・副部会長 山田 吉晴
 - ・出席委員 荻野 利直 穴瀬 一正 竹知 直弥 亀田真以子
芦田 巧 谷口 大貴 足立 賢太
 - 欠席委員 井上 友海
 - ・オブザーバー 植木 和也
 - ・識見者 藪内 文次郎 小田 敏治
- [事務局]
- ・教育長 片山 則昭
 - ・教育部長 山本 浩史
 - ・学校教育課長 小森 真一
 - ・教育総務課長 足立 安司
 - ・教育総務課副課長兼企画総務係長 足立 真澄
 - ・教育総務課学事係長 福垣 恵介
 - ・教育総務課 河南 良次
 - ・教育総務課 梅田 柚希

次第

(足立教育総務課長)

1 開会

それでは、定刻となりましたので、ただいまより第3回の丹波市春日地域市立小学校統合検討委員会黒井・船城地域部会を始めさせていただきますと思います。

本日の資料につきましては、事前に送付をさせていただいておりますが、お手元に資料がない方等ございましたらお申し出ください。

次に、毎回のことでございますが、委員の皆様方をお願い事項がございます。

1点目は会議のご発言についてです。ご発言の際にはお名前を発せられてからご発言くださいますようお願いいたします。

2点目ですが、本日の会議は公開をしております。また報道関係者による写真撮影等がある場合もありますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

最後3点目でございます。会議の終了時刻についてでございます。事前に案内をさせていただいておりますが、全体会を19時30分から開始させていただきます予定としておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、山川部会長よりよろしくお願いいたします。

(山川部会長)

皆さん、こんばんは。昨日、結構雪が降りまして、雪かきなどその他いろいろ大変だったと思いますけれど、本日は夜分にご出席いただきましてありがとうございます。地域部会のほうも、大詰めに迎えております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

次第

(山川部会長)

2 前回会議について

それでは次第にのっとりまして始めていきたいと思っております。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

前回の会議について、まず振り返りをさせていただきます。

資料1をご覧ください。前回第2回の黒井・船城地域部会のまとめになります。

主な内容としましては、(1)としまして、部会として協議すべきテーマ、委員個人として不安に思っていることや質問したいことなどについて、委員にヒアリングさせていただきまして、その結果につきまして報告させていただきました。

(2)事務局より情報提供等というところですが、そのヒアリングの意見のうち、事務局に対する質問や意見もあったことから、例えば、統合した年度と翌年度に兵庫県独自の措置として、教員の加配が行われる場合があるということ、また、これまでの事例として、統合までに学校間で合同授業や合同授業参観の実施、地区住民や保護者、子ども、教職員による交流もされていることなどについて、情報提供させていただきました。

下の段に移りまして、(3)ですが、校名や通学手段、アフタースクールなどの統合に関する具体的な意見も事前ヒアリングの中から出てきておりまして、この地域部会でどこまで協議を行うかということについて意見交換していただきました。

船城地区自治会長会が要望する喫緊の課題に対応するため、統合時期を令和10年度とし、現黒井小学校の校舎を活用し、また校名を黒井小学校とすることについて意見交換されました。その中で、統合の是非が決まってから統合するまでの期間として、最低2年間は要することを事務局から回答させていただきました。

(4)協議結果ですが、統合時期は令和10年度、場所は黒井小学校、校名は黒井小学校とすることを、地域部会の原案として、この原案を地区で持ち帰って協議していただき、その結果を、本日の地域部会で報告していただくこととなっております。

次のページは、意見交換会の中で委員から発言いただいた主な意見を抜粋しております。会議のまとめ、決定事項につきまして、改めて掲載しております。詳細な内容としましては会議録をつけておりますので、ご確認ください。

(山川部会長)

ありがとうございます。

今の事務局からの報告につきまして、何かご意見、ご質問はございますでしょうか。

(意見・質問なし)

なければ、次に行きたいと思います。

次第

3 報告・協議事項

(1) 地域部会の原案について船城地区から報告

(山川部会長)

報告・協議事項ということで、船城地区からの報告事項について、よろしくお願いいたします。

(委員)

失礼します。それでは、私のほうから船城地区自治会長会の会長ということで、報告をさせていただきます。お手元の資料に、黒井・船城地域部会の原案に対する回答という文章をお配りさせていただいております。それに基づいて、ご説明を申し上げます。

令和7年12月17日に開催されました、第2回の黒井・船城地域部会の原案につきまして、下記のとおり回答いたします。回答の内容といたしましては、船城地区として黒井・船城地域部会の原案について同意するものです。

その同意の内容でございますが、基本的には第2回の地域部会の原案に基

づいたものでございます。

統合時期は、令和10年度を目標とする。校名は、丹波市立黒井小学校とする。校舎は、現在の黒井小学校の校舎とする。

そして、4つ目ですが、これは船城地区の住民の皆さんの総意というような形で挙げさせていただいております。黒井地区と船城地区を新たな校区として、共に学び合える黒井小学校を新たに創っていく。こういった文言を追加させていただいております。この意味合いといたしましては、一つは黒井地区と船城地区のこどもたちがお互いに学び合える、同じ教室で学び合えるということを想定したものでございます。もう一点は、黒井地区と船城地区の歴史、文化をお互いのこどもたちが学び合ってコミュニケーションを取りながら、お互いに理解し合う、黒井地区と船城地区をお互いに理解し合うというような意味で、共に学び合える黒井小学校を今後創っていくという思いでこの文言を追加させていただいております。

これを決めるまでには、住民説明会、またPTA保護者を対象にした説明会をもちまして、最終的には1月23日に開催いたしました船城地区自治会長会で最終決定をしたというところでございます。

(山川部会長)

ありがとうございます。

今、ご報告がございましたけれども、この件についてご意見をいただくのと、黒井小学校のPTAのご意見としては、ございますでしょうか。

(委員)

1月28日に(黒井地区の)保護者説明会をさせていただきました。事前に船城地区で意見がまとまったという話をお伺いしておりましたので、それを基にお話をさせていただきました。当日は40名ほど参加いただきまして、私のほうから経過の説明や、こういった形で話が進んでいるという話をさせていただいて、おおむね納得をいただいたというふうに思っております。

少し不安な質問もあったので、私から回答したり、教育委員会からもご回答いただきまして、皆さん納得をいただいたと思っております。30分ほど終わったんですけども、しっかりご理解いただいたのではないかなというふうに思っておりますので、ご報告させていただきます。

(山川部会長)

ありがとうございます。黒井小学校PTAの報告をいただきました。これに関して何かご意見ございますか。

(委員)

昨年12月22日に春日地城市立小学校統合検討委員会だよりを発行されました。何か反応ありましたか。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

特に問合せがあったというようなことはございません。

(山川部会長)

ありがとうございます。

この報告につきまして質問、ご意見とかありますか。

(委員)

先ほど委員からもありましたように、船城小学校PTAとしても保護者説明会を開催させていただきました。すいません手元に資料がないので、参加人数等はぱっと出てなくて申し訳ないんですけども、聞いていただいた方は、おおむね了承をいただいております。

あとちょっと先の話になるかもしれませんが、保護者の意見の中で、令和10年度を目指すという前提で話を進めてもらえるのは非常にありがたいことですが、そこばかりに焦点を当てて、肝心なところが抜けることだけはないようによろしく願いますということを保護者の方からも聞いております。急ぐというのは大事なことだと思うんですけども、そ

ういう意見がありましたので、皆さんもその認識を持っていただくように、よろしく願いいたします。

(委員)

一つ質問なんですけれど、先ほど委員から保護者会の結果について報告いただいて、ありがたいなと思ったのですが、(黒井)地区の方々のご意見というのはどんな状態でしょうか。

(山川部会長)

(前回の地域部会でもありましたが、)地区住民全員の意見というのはまだ聞いておりません。ただ黒井地区自治会長会としては、受け入れるという側ですので、何の問題もないという意見を聞いています。

(委員)

今後も地区住民の方への意見聴取はしなくていいというご判断でしょうか。

(山川部会長)

この地域部会で、皆さんのご意見がまとまれば、次は準備段階というステージに上がっていくので、その段階でいろいろな問題が出てくると思います。それに対して地区の皆さんにご相談をかけて、意見を聞きたいなというふうに思っております。

(委員)

ありがとうございます。

(山川部会長)

ほかにございませんか。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

1月30日に、こどもの意見を聞く場として、船城小学校で全学年の児童を対象に、統合に向けた説明とこどもたちの意見を聞いてきておりますので、ここで報告させていただきます。

(小森学校教育課長)

私から、児童の意見聴取について報告します。

船城小学校のこどもたちの気持ちを確認するために出向いて参りました。実施日は1月30日金曜日、小学校1年生、2年生、3年生は5時間目、4年生、5年生、6年生は6時間目に行いました。

聞き取りは授業時間なので、前に私が立って、教育総務課長と教育総務課副課長の3人で行いました。教室には学校長をはじめ、担任の先生や養護教諭なども一緒に見守っていただき、こどもたちが意見を言えるように、また書けるように、支援をしていただきました。

聞き取りについて、実施した流れに沿って報告いたします。

最初に、新聞で見たり、おうちの人から聞いたりして、船城小学校の将来をどうするか、黒井小学校と一緒にするのかというようなこと、大人たちが話し合っていることを聞いたことがありますかと尋ねてみました。

低学年は20人ほどいるうち、知っていると手を挙げた、返事したのは3人ほどでした。4、5年生は1、2名、6年生は4、5名という感じでした。予想以上に知らない児童が多く、今から初めて知る子もいるのかなと思うのと、伝える私と児童の関係が全くない状況ですので、戸惑うだろうなと思いながら、最初に背景からゆっくりと説明することにしました。

導入としては、みんなの船城小学校をこれからどうしようか、今、大人が真剣に話し合っていること、それを当事者である皆さんに知ってもらい、皆さんの気持ちを知りたいこと、聞かせてもらった皆さんの意見を私が大人の話し合いの場で伝えるので、しっかりと聞かせてくださいと話してから進めました。

第1部として、なぜ大人が話し合いを始めたのかという背景として、船城小学校のこどもの数が減っていることを説明しました。説明のため提示する資料としては、できるだけ短い言葉と、パッと見て把握できる図や絵で構成し

ました。また漢字にはルビを打ち、文を指で押さえながら読むようにしました。

最初に、棒グラフでこどもの数の減少をつかませるようにしました。今との比較対象は、親が小学生だった頃として25年前を比較しました。25年前の児童数は100人であり、今は53人なので「減ってる」という反応が、ほぼ全ての児童から見てとれました。棒グラフは全校児童の数であって、各学年各教室のこどもの数はイメージしにくいと考えて、1つの教室にどれぐらいのこどもがいたのか、25年前と比較するイラストを次に提示しました。1つの教室に今だったら平均で何人、25年前だったら何人というようなイラストで表しました。そうすると、先ほどの棒グラフのページのときより大きい声で、「少ない」、「めっちゃ減ってる」という声が聞こえてきました。

ここで1回目のこどもたちへの聞き取りとして、「船城小学校にもっと小学生がたくさんいたらいいのになと思ったことはありますか」と尋ねました。聞き取りの方法としては、ここでは手を挙げて発表させました。こどもたちの反応としては、「思ったことない」とか、「考えたことない」という意見もありましたし、「授業中のペアとかグループがいつも同じなので、人数が増えたら毎回変わるからいいなあ」とか、「運動会や音楽会で人数がもっといたら盛り上がるのに」というような発表もありました。

次に、大人が何を話し合っているかについて小学生に説明しました。

まず、何度も話し合いが続けられていること。直近では、1月18日にふなき荘で船城地区の大人が50人ほど集まって話し合っていること。1月21日には小学校でおうちの方が集まって話し合ったことを紹介しました。

その後、直近の会では、船城小学校と黒井小学校を一緒にして、新しい学校をつくってはどうかについて話し合われているということ。2つの学校を一緒にするを「学校統合」という言葉を説明しながら紹介しました。

その後、丹波市内では、これまでに統合した学校があることを紹介しました。青垣小学校、吉見小学校、山南中学校、竹山小学校、そして4月の市島小学校を紹介しました。

次に、船城小学校と黒井小学校が統合した場合、クラスの人数がどうなるのかを説明しました。

1年生を例にとると、船城小学校は女子が2名ですから、統合すると21名になるというのを、こどものイラストが2名から21名に増える様子が分かるように提示しました。

こどもたちの反応は、イラストでこどもの数がどっと増えたことが伝わったようで、「えーっ」と大変驚いていました。ここはかなり賑やかな反応が各学年見られました。

その直後に、同級生がたくさんになったらうれしいですか、心配ですかと尋ねました。自分の気持ちの表し方は、気持ちのメーターとして、一番左にうれしい、一番右に心配と表示して、真ん中がうれしいと心配が半分半分というところで、自分の気持ちはどの辺かなということで、ネームカードを前に貼らせました。先ほど、「えーっ」と驚いた直後でしたので、不安という気持ちが素直に出せた様子で、不安のほうに貼るこどもたちの方が多かったです。みんなが貼った後、気持ちを聞いてみました。いろんな気持ちがあることを知ることが大切だと考えて、うれしいと貼った子、真ん中に貼った子、心配だと貼った子、それぞれ指名して気持ちを尋ねてみました。うれしに貼った児童は、「友達がいっぱい増えた方が楽しい」とか、「こども園で知っている友達と一緒にするのが楽しみ」と話してくれました。心配に貼った児童は、「人見知りだから、大勢になるのは不安」とか、「こども園のときにいじわるな子がいたから、一緒にするのが怖い」とか、「大勢になったらケンカが起きそう」と話してくれました。真ん中に貼った児童は、「友達が増えるのは楽しみだけれど、知らない子もいるので、仲よくできるか心配も

ある」と話してくれました。

次に、統合検討委員会などで、大人がどのような考えなのかを説明しました。私もふなき荘の話合いに出席していたので、その話合いでは黒井小学校と船城小学校を早く統合した方がよいという意見が多かったということをお伝えしました。そして、統合を早くしたほうがよいという意見の理由として、「大勢で勉強したり遊んだりするほうが成長できるので、早く統合を進めてやりたい」という意見や、「3年後には1年生が2人だけになる。ずっと2人だけで勉強したり生活するのは寂しいと思う。早く統合して友達が多い学校生活に過ごさせてやりたい」とか、「同級生がたくさんになると不安なこともあるだろうけれど、楽しいことやできることもあると思う」という意見、いろんな意見があることをお伝えしました。6年生のこどもからは、「たった2人になる学年があるのか」というつぶやきが聞こえてきました。

最後に、今日の説明を聞いて、船城小学校と黒井小学校が統合することについて、今の自分の気持ちを伝えてほしいとお伝えしました。

高学年はプリントに、今の気持ちを書くように指示しました。「今聞いたばかりで分からない」というつぶやきも聞こえましたが、小学校の先生方が巡回しながら、一言でもいいから書こうと声をかけてくださったりして、全員意見を書くことができました。こどもたちは書きながら、周りの友達と話をしながら、今日聞いた説明を確認したり、自分の気持ちを整理したりしている様子が見てとれました。

低学年は、3年生のみ高学年同様プリントに書かせ、私が話をかけて回りました。1年生は教育総務副課長が、2年生は教育総務課長がしゃがみ込んで、一人ひとりとキャッチボールする形で、気持ちを聞き取っていきました。

こどもたちの意見や気持ちは大きく3つに分類できるものでした。

まず、統合に前向きな意見。「楽しみだから」、「知っている子がいるから」と低学年からの意見が多かったです。高学年からは「行事が楽しく開催できる」、「ライバルがたくさんできる」など。また、「妹が小学生になったときに少ない人数で授業を受けるのはかわいそうなので統合してほしい。」と、年下のこどものことを考える意見が見られました。また6年生は、「全て黒井小学校、全て船城小学校ではなく、黒井と船城で新しい学校になるようにしてほしい」や、「船城小の文化を残してほしい」、「松の木は残してほしい」、「校舎は残してほしい」、「タイムカプセルを取り出せるようにしてほしい」などの意見がありました。

中間的な意見としては、中学年、3年生から5年生あたりに多くありました。「仲のいい人がいるから楽しみです。でもちょっぴり不安です。ほかの学年の人は知らないし、ちゃんと仲よくなれるか不安です。」や、「私は心配があります。友達がたくさんになるともっと学習できるけれど、本当に友達になれるか不安だし、人数が多くなることによっていじめが起きないかが心配だからです。楽しみは遊ぶ時に大人数で鬼ごっこやドッジボールをしたほうが盛り上がるし、みんなが笑顔になる回数が増えると思います。」というような意見がありました。また、「僕は統合したいと思います。理由は友達が増えて、さらに遊びが楽しくなるし笑顔が増えるからです。でも、統合すると船城小学校がなくなるのは嫌なので半分半分です。」という意見や、「3年後、妹が1年生で2人だけだと何も勉強できないしかわいそうだから、統合には賛成だけれど、せめて僕が卒業してからにしてほしいので、半分半分です。」というような意見もありました。

心配な意見は特に低学年に多くありました。低学年は心配という言葉が多く、「友達と仲よくなれるか心配」、「知らない人と会うのが心配」、「知っている先生がいなくなるのが心配」、「どんな先生になるのか心配」など、友達や先生に関する心配事が多くありました。中学年は、「どんな子がいるか心配」や「少なくて静かなほうが集中できる」、「給食中にうるさいかも」、

「教室がぎゅうぎゅうになる」など、低学年より具体的な場面を書いて、不安な中身を教えてくださいました。「バス代も払わないといけない」という意見も複数ありました。6年生の中には、「初めは話しかけないとか、どうしたらいいだろうと頭の中で不安になる人が少なくないと思う」とか、「人見知りやコミュニティ障がいの子にとって同級生が増えると、今の友達がほかの子に取られて一人ぼっちになってしまうことを嫌がる子もいるかも」や、「人が多くなると、児童会など人をまとめるのが大変になる」というような経験に基づく意見もありました。

こどもたちは想定以上に統合について、大人が話し合っていることを知っていないという印象を受けました。そのため、突然私の説明を聞いて戸惑った中での意見の聞き取りになった面もあるでしょうから、少し時間をおいて落ち着いて考えることも大切だと思いました。

そこで、「週末におうちのひとと黒井小学校と船城小学校の子が統合するかもしれないということについてお話しすること。宿題ですよ」と伝えました。担任の先生ではないおじさんが言った宿題なので強制力はありませんが、おうちの人はどう思っているかということを考えてもらうことも大切かなと思って発言しました。

前に立って授業をして、終わった後、校長先生と主に3つのことを意見交換しました。

まず思っている以上に知っていなかったもので、説明をする機会があつてよかったなと思いました。私が中立的な立場で統合が検討されているということや、その背景を話すことで、これからこどもたちが自分事として考えるきっかけになったのかなというふうに思います。アンケートだけではこどもの不安は引き出せなかったと思うので、今回は授業形式で進めたこと、提示資料を工夫したこと、発達段階に合わせて聞き取り方法を工夫したことはよかったのかなと思っています。

2点目は、愛校心が育っていると感じたことです。船城小学校が大好きだからこのままがいいなとか、校舎やあれを残してほしいなという意見がありました。下級生やこれから入学する後輩のことを考える意見があったのも、地域愛、愛校心の表れだと思います。

3点目は、不安をたくさん聞き出せたということです。こどもたちがどんなことに不安を抱いているのかを具体的に知ること、今後検討や準備を進める際に、何を大切にすべきか、行政や学校、保護者、地域がそれぞれ何をすべきか、何ができるかを検討する大切な意見になるというふうに感じました。

船城小学校のこどもたちから聞き取った意見についての報告は以上です。

(山川部会長)

ありがとうございます。

今、ざっと言葉でずっと説明していただきましたけれども、何かご意見等ございますか。

(委員)

先ほど報告していただきましたけれども、今後検討委員会から準備委員会になりますよね。そのときに、今までほとんど大人が決めていっています。先ほどおっしゃいましたこどもの意見等は加味されていくのですか、準備委員会の段階で。

(小森学校教育課長)

まず船城小学校のほうのこどもの不安を聞きました。この後、決定されて話が進んでいった場合に準備委員会が立ち上がるとなる場合、黒井小学校のこどもたちにも、黒井小学校の先生と協力して聞き取りを行う中で、これまでの統合もそうなのですけれど、こどもたちが不安に思うところについて、例えば同じ学年に一緒になることの不安であれば、事前に交流会をしていく

とか、一つひとつ出てきた声を加味していくことが大事だと思っております。

(委員)

準備委員会の段階では、こどもの意見関係というのは、事務局の方から発表されるということによろしいですか。それとも学校長の方からされますか。多分こどもはこの会には参加しないと思いますので。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

状況報告ということですが、その時々の子どもの反応や状況を見て、学校行事の取組を随時報告していきたいと思います。準備委員会になった場合には、学校長も委員として参加すると思いますので、その都度学校における取組状況を報告する場面はあるかと思います。

(山川部会長)

準備委員会というのはまだこの地域部会でご承認をいただけていませんけれど、今の意見を聞いて、皆さんがオーケーといいますか、先に進めようということになれば、準備委員会というステージに上がります。今この場で、もう準備委員会ということで次に進めてもよろしいかどうかをやっぱりきちっと決める必要があると思いますけれども、どうですか。

今までのご報告、ご意見の中で、じゃあもうこれで準備委員会という形で、次に進めていきますかというのを、皆さんで決めていただきたいなと思うのですけれど。

(委員)

先ほどおっしゃいました件ですけれど、基本的には統合検討委員会のこの地域部会で結論が出た後、これから行われる春日地域全体の検討委員会です承を受けますと。そうした場合、準備委員会というのは、地域部会の準備委員会になるのですか。その辺ちょっとはっきり分からないのだけれども。それとも春日地域全体で船城と黒井の準備委員会ですやりますか。その辺が明確になってないと思う。

(山川部会長)

準備委員会は黒井と船城だけで、この地域部会が準備委員会に切り替わる。

(委員)

このメンバーが準備委員会の委員になるということですか。

(山川部会長)

この地域部会が準備委員会になっていきますよと。ただ、メンバーが変わるか変わらないかというのは、まだ分からない。

(委員)

そうなってくると、要綱がございますよね。取りあえず地域部会の検討委員会は解散、新たに準備委員会に切り替えるということであれば要綱が変わってくるのですか。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

先ほどから準備委員会のことについて質問が出ていますのですけれども、部会長が言われたように、まずこの地域部会の方向性として、最終的に場所は黒井小学校、校名は黒井小学校、令和10年の統合を目指すというところで、地域部会の最終結論としていいか、皆さん異議がないか、その確認をまず取っていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(山川部会長)

どうですか。

(全委員)

異議ありません。

(山川部会長)

全員異議なしということです。

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

そうしましたら、今後についての流れを簡単に説明いたします。

この後行われる春日地域市立小学校統合検討委員会の全体会で、この地域部会の方向性を承認されましたら、黒井小学校と船城小学校の統合準備委員会を立ち上げることとなります。主な協議事項としましては、船城地区児童の通学支援や通学路の安全対策等ということになります。

準備委員会の委員につきましては、現在の黒井地区と船城地区の委員10名に加えまして、校長先生2名、認定こども園園長1名の全体13名で予定しております。事務局は検討委員会と同様に教育委員会が務めます。

なお、検討委員会では、春日地域市立小学校統合検討委員会全体会の中に部会として設置しておりましたが、準備委員会は、検討委員会とは別組織になります。新年度は、検討委員会よりも先行して準備委員会を始めて、統合に向けた具体的な協議を進めていきたいと考えております。検討委員会と準備委員会は別組織とはなるものの、準備委員会の委員の皆様が春日地域全体の統合検討委員会の委員も兼ねていただきますと、協議が円滑に進みますので、委員の兼任についてご協力いただきたいと思っております。

(山川部会長)

この件について意見はありますか。

(委員)

ちょっと水を差すわけではないのですが、先ほどあったこどもに対する説明会について、自分のこどもからは前日の29日に聞いて、初めてであると知ったんですけれども、結構不安な声がたくさんあったというのが、こども園にもこどもがおるのですけれども、小学校にもいて、親としてもこどもたちに話さへんかったわけではないんですけれども、去年PTA会長をしているときにこどもの意見を聞きたいですと学校に相談したときに、こどもたちは、1年生から6年生までやっぱり年も違うし、聞くと混乱する場合もあるから、やっぱりやめといた方がいいと言われて、今まで別に話さへんかったわけじゃなくて、そういうことを聞いて、保護者としてどう対応していったらいいかなということが分からなくて、こどもに対してちょっとなかなか説明できへんかったところもあって、先ほど準備委員会では、通学路とか、安全に学校に通えるようなことを決めていくと言われてたのですけれども、こどもがこれだけ不安に思っているの、それに対して保護者としても、学校と一緒にどうやってサポートしていったらいいかという保護者に対するサポートもしていただけたら大変ありがたいです。

今これだけ不安と聞いたので、令和10年度を目標にしているのですけれども、ちょっとそのあたりは様子を見ていって、年度を決めていった方がいいのかなと少し思いましたので、こどもたちに対するサポートと一緒に、こどもたちを支える保護者に対しても、こどもをどうやってサポートしていったらいいのかを学校も含めていろいろやり取りして、対応していきたいなと思いましたので、そのサポートもしていただけたらありがたいです。

(小森学校教育課長)

多分委員と同じ気持ちだと思います。こども園からは船城と黒井の2つの小学校しかないのです、例えば小学校1年生、2年生だったら、まだこども同士が離れて1、2年なので、黒井小学校に通っているこどものことも知っているけどこどもは言うのかなと思っていたのですけれども、やっぱり小学校という異なる教育課程の中で過ごしていて、また、知らない学年の子もいるということで、新しい環境になる不安が思っているよりも大きいということを知れたのは、本当によかったのかなと学校長とも話していました。

これまで統合した学校においても、統合に向けて合同で授業をしたり、保護者が合同で懇談をしたりという積み重ねをいろいろとやってきていますので、これを契機に交流はやっぱり大事だよという話を学校長としました。

先ほど、もし準備委員会が立ち上がったと先走って言ってしまって申し訳なかったんですけれども、何が言いたかったかということ、もしその方向に進

むのであれば、統合の準備を進める中で通学路とか通学方法等と併せて、こどもの不安を解消していく取組について進めていきたいということをお願いしたかったんです。今の委員の言われる思いと同じだと思っていますので、これまで統合してきた学校の取組を参考にしながら、教育委員会として、黒井小学校、船城小学校を支援しながら、こどもたちの不安解消に全力で努めていきたいと思っています。

(山川部会長)

そういうところが一番大事だと思うので、その辺はやっぱり準備委員会の段階で、きちっと捉えていかなければいけないかなと思います。

ほかにご意見やご提案等なければ、この地域部会は次の段階の準備委員会という形に進んでいくということで、進めていってもいいということですか。

(全委員賛成)

ありがとうございます。

それでは、この先について、事務局のほうからお願いします。

次第

4 閉会

(足立教育総務課副課長兼企画総務係長)

そうしましたら、続きまして、全体会に移りたいと思います。会場は1階になります。資料とネームプレートをご持参いただいて下の会場に移動をお願いします。